

【畑中圭一（一九三二〜）】さんも大阪弁の詩人です。家族のことを大阪弁で書いています。

ねたきりの おばあちゃん

うちのおばあちゃんねたきりやねん
おこづかいくれへんし
おはなししてくれへんし
どこぞへつれてもろうてへんし
なんにもしてくれへん
とおもつてたけど
だいじなことにしてくれてはる
いっしょうけんめいいきるといふことや
うちのおばあちゃんうごかれへんねん
しゃべることだけへんし
トイレもいかれへんし
ひとりであべることともようせんし
なんにもしてはらん
とおもつてたけど
だいじなことにしてくれてはる
いっしょうけんめいいきるといふことや

ママさんバレー

ママさんバレーをみにいつてん
けどおかあちゃんボールひろいや
あせふきもて
ボールおいかけてはる

はよ
レギュラーに
なりイヤ

やせようおもつてしてるんやろ
けどおかあちゃんさっぱりやんか
あせながして
コートはしつてはるのに

はよ
スマートに
なりイヤ

ほんまにバレーがすきなんやな
けどおかあちゃんほどほごにしイ
あせぐっしより
とつくんやりすぎやでエ

はよ
かんとくに
なりイヤ



おとうちゃんと おかあちゃん

おとうちゃんと おかあちゃん
わかいときは
手にぎってあるいたか
うでくんでんやろ
キヌしてんやろ

ぼくみたかつてんけどなア

おとうちゃんにおかあちゃん
こどものころ

ごんたやったか なきむしか
おしりたたかれたか
そとへだされたか

うそついたかてわかるでエ

おとうちゃんも おかあちゃんも
あかちゃんのころ
かわいいかおしてたんやな
目ぱうちりやし
かみふさふさやし

いまなんでそなやねん

※ごんたはいたすらう子

おじいちゃんの なかなか

よう うえき はるな といわれて

なかなか

おわかいでんな といわれて

なかなか

ほめられると かならず なかなか

おじいちゃん けんそんかやな

なかなか

ええ おまごさんやな といわれて

なかなか

かしこい子やな といわれて

なかなか

ほめられたン ぼくやで いややな

おじいちゃん けんそんしすぎ

なかなか



かなんねン

ぼくの おとうと かなんねン

バスの なかでも

おおきな こえで うたうねン

「シーッ」いうたら

「おにいちゃん おしっこしたいんか」

いうねンで

ぼくの おとうと かなんねン

いろんなことを

なんで なんてと ききよるねン

「あとで」いうたら

「おにいちゃん ようこたえんのやろ」

いうねンで

ぼくのおとうと かなんねン

ねぞうわるいし

ねながら ごうつうわらうねン

「こらッ」いうたら

「おにいちゃん かにんな」とねごとで

いうねンで

おねえちゃん

おねえちゃんがおよめにいつて

家族は四人

ケーキりやすうなつてン

かにんな おねえちゃん

おねえちゃんがおよめにいつて

食事は四人

おかずを また五にんぶん こうて

しつかりしい おかあちゃん

おねえちゃんがおよめにいつて

たいくつして

電話で けんかも だけへんし

あきらめや おにいちゃん

